

(2) 特色ある教育活動

ア 目標

予測不能な社会を「生き抜く力」を養成するために、学校の教育目標に示す、目指す生徒像に則した生徒を育てる教育活動を展開する。

- ・豊かな心の育成＝思いやりのある生徒（思考力）

教育活動全体で命の教育についての指導を実施するとともに、人権尊重を意識した教育活動を展開し、自尊感情や自己有用感を高めさせ、自他の命を大切にできる態度を育成する。

- ・これからの時代に必要な資質・能力の育成＝主体的に学び行動する生徒（行動力）

生徒の自主性を意識した学校生活を向上させるための取組を充実させ、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。

- ・主体性、協調性の育成＝協力する生徒（人間（じんかん）力）

体験活動への主体的な取組を推進するとともに、保護者や地域と共に取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通して視野を広げさせ、他と共に学ぶことの良さを体感させる。

- ・保護者・地域との連携及びコミュニティ・スクールの推進により、社会総がかりで特色ある教育活動を進めていく。

イ 重点

- ・「社会総がかりで子供を育む」理念のもと、地域と連携・協働して学校教育の推進を図る。

- ・地域行事のボランティア活動等により自主・自律の態度を育み、自己有用感を味わわせるとともに、自他の命の大切さを体感させ、人権尊重の意識の高揚を図る。（思考力・行動力）

- ・外部講師による授業や体験活動を積極的に取り入れて生徒の視野を広げさせ、主体的に学び、行動する力を高め、身に付けた知識・技能を生かし自己表現するために共に考え協働し深い学びを実現させる。（行動力・人間力）

- ・学校図書館運営支援員等を活用し、各教科、領域で横断的、計画的に図書館利用を活性化させ、生徒の自主的な読書活動を推進する。（思考力・行動力）

ウ 具体的取組

「考え抜く力」（思考力・判断力・表現力）の育成に努めるために、教科の学習活動にとどまらず、総合的な学習の時間、学校行事、部活動等、様々な教育活動で実践する。

- ・「教える授業」から「考えさせる授業」の転換のため、授業規律を確立し、「ねらい（何を学ぶか）」「見通し（どのように学ぶのか）」「振り返り（何を学んだのか・さらに何を学びたいのか）」の授業スタンダードの定着を図る。
- ・ICTやタブレットを活用（デジタルを活用したこれからの学び R7・R8 研究実践校）し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現させ、小中連携教育を通して9年間の学びの連続性を図っていく。
- ・学校図書館を活用した読書活動の推進を図るために、朝読書、教科等の利活用、書評発表等を行い、図書委員会の活動として移動図書館の設置や運用、ブックトーク、そして図書館便り等を通じて、「読み解く力」や「考え・表現する力」を育む。また、保護者・地域からボランティア支援員を募り、放課後及び長期休業日の学校図書館を開放し貸し出し数の増加を図っていく。
- ・学校 2020 レガシーである保健体育科の「空手道」「ハカ」の授業を通じて、日本人として自覚と誇りの「伝統文化の理解」や豊かな国際感覚の「異文化理解」を育み、主体的な学び、行動する力、協働する力を高め、表現力の育成を図る。